

聖陵山古墳(野口町長砂) はチャンバラの戦場

1947年に生まれた私は団塊の世代。170万人近くの高齢者がいて、生まれながらに改革を背負わされた。野口町円長寺で育った幼少期は、緑豊かな田園風景の中で一際目立って高い聖陵山が、チャンバラごっこの戦場であった。



後年それが古墳である事を知る。4～5世紀頃に造られた全長78m

の前方後円墳で、前方部にはお寺が建ち、径45m高さ6mの後円部が我々の山である。カブト虫もクワガタ虫も、傍の小川にはホタルもいた。

高校の頃、今の平荘湖の湖底に沈む古墳群の発掘調査に、短期間だが係わった。その古墳と比べると、円長寺古墳は非常に大きい。随分と南に在る。海が直ぐそこであったと思われる。景行天皇の后でヤマトタケルの母・イナビノオオイラツメの陵墓が大野の日岡山古墳(径60mの円墳)である。

海と川と稲美野台地を支配した豪族が野口近辺に住んだのであろうか。野口には、「駅が池」の傍の古大内に「賀古の駅」があり、すぐ北の「教信寺」に住む教信上人が、旅人を日岡山から益田山に渡河して高砂まで案内したという。上人が案内して歩いた、古大内から水足を経て大野に至る旧街道に添う形で、江戸時代に「新井用水路」が播磨町まで掘られている。

「聖陵山古墳」は、私にとって古代の壮大なロマンを繰り広げる「心の旅」の原点である。

<聖陵山古墳(せいりょうざんこふん)>

もともと、聖陵山古墳は、前方後円墳であったが、明治7年に前方部を平らにし、寺(円長寺)をここに移したため、現在の墳丘は円墳のようになっている。

また、寺伝では、天文12年(1544)に、この古墳から鏃(やじり)12本が出土した(今は7本が残っている)ことを伝えている。

この鏃などから判断して、この古墳は4世紀後半の古墳と考えられており、地形から海とのかかわりを持つ豪族の墓と考えられ、考古学では注目されている古墳である。

*写真:大きな木の繁るあたりが聖陵山古墳(元は前方後円墳)の後円部

せいりょう園施設長 渋谷 哲